

第2章 阿波市の農業を取り巻く現状

1. 国の動向

◆ 基本的な農業政策に係る動向 ◆

◎国は令和2年3月に「食料・農業・農村基本計画」を見直し、農業の成長産業化を促進するための産業政策と、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を促進するための地域政策を、引き続き車の両輪として推進しています。

◎日本の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるため、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」が策定されました。化学農薬・化学肥料の使用量低減、有機農業の拡大等の14の数値目標（KPI）が示されており、戦略実現に向けて取組を進めています。

◎平成29年の国連総会では「家族農業の10年」（平成31年～令和10年）が定められ、貧困撲滅や安定的な食糧確保において重要な役割を果たしている家族農業について、施策の推進・知見の共有等に取り組むこととなっています。

◆ 国際情勢等への対応に係る動向 ◆

◎新型コロナウイルス感染症は、国内で初めて感染者が確認されてから3年以上が経過した現在においても、日本の経済・社会に大きな影響を及ぼしています。農業分野においても例外ではなく、中食・外食・インバウンド需要の減少に対応するため、販売促進・消費拡大支援や経営継続支援等が取り組まれています。

◎令和4年2月から続くウクライナ情勢に伴う物価高によって、肥料価格や飼料価格が高騰し、日本の農業にも影響が出ています。こうした中、国は「肥料価格高騰対策事業」「配合飼料価格高騰緊急特別対策」「国産粗飼料利用拡大緊急酪農対策」等による支援を実施しています。

2. 徳島県の動向

徳島県においては、平成20年に制定した「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本条例」に基づき、令和3年3月に「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画」が策定されています。

計画では、『「いのち」と「暮らし」を支える食料・農林水産業・農山漁村を次代へ継承する』とともに、『もうかる農林水産業の実現』が基本理念とされており、スマート農林水産業の実装と労働力確保、持続可能な農林水産業の実現等を基本戦略として、取組を進めています。

また、生産基盤の強化に関する取組以外にも、ECサイトやリモートツールを活用したプロモーションや、首都圏での情報発信・交流拠点である「Turn Table」を活用したブランディング強化、とくしまブランド推進機構（愛称：地域商社阿波ふうど）による販路拡大等についても取り組むこととされています。

3. 阿波市の現状

(1) 農家の現状

① 農家数

令和2年の総農家数は3,017戸で、国勢調査による本市の世帯数12,989戸に占める割合は約2割となっています。また、総農家数に占める販売農家の割合は61.3%（1,848戸）で、自給的農家数は38.7%（1,169戸）となっています。

次に、農家数の動向については、平成22年と令和2年を比較すると10年間で26.6%（1,094戸）減少しており、そのうち販売農家が22.7%（933戸）の減少で自給的農家が3.9%（161戸）の減少となっており、販売農家の減少が主な原因となっています。

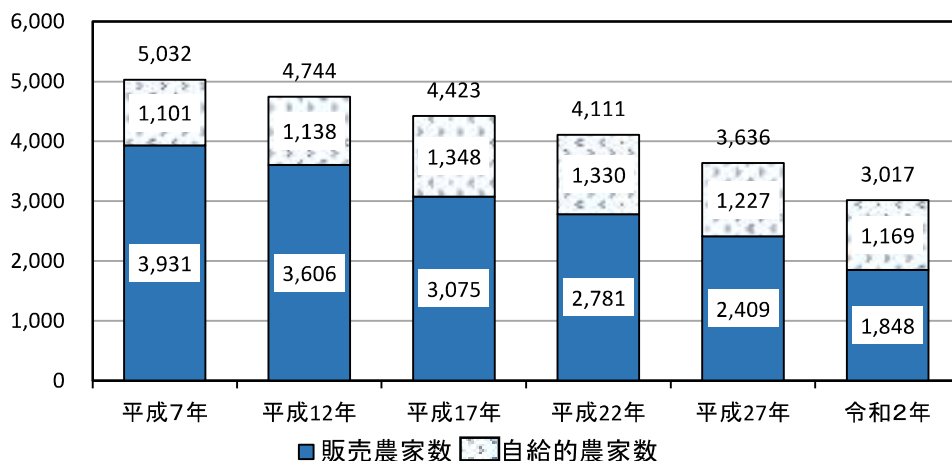
農家数の推移

単位：戸、%

年次	総農家数	販売農家数	自給的農家数
平成2年	5,399 (100)	4,199 (77.8)	1,200 (22.2)
平成7年	5,032 (100)	3,931 (78.1)	1,101 (21.9)
平成12年	4,744 (100)	3,606 (76.0)	1,138 (24.0)
平成17年	4,423 (100)	3,075 (69.5)	1,348 (30.5)
平成22年	4,111 (100)	2,781 (67.6)	1,330 (32.4)
平成27年	3,636 (100)	2,409 (66.3)	1,227 (33.7)
令和2年	3,017 (100)	1,848 (61.3)	1,169 (38.7)

注) () 内は構成比。

資料：農林業センサス



②主副業別農家数

主副業別農家数を平成22年と令和2年で比較すると、主業農家が322戸（42.8%）、準主業農家が542戸（69.0%）、副業的農家が71戸（5.7%）減少しています。令和2年の主副業別農家数の構成比をみると、主業農家が431戸（23.3%）、準主業農家が244戸（13.2%）、副業的農家が1,174戸（63.5%）となっており、他の仕事を主としながら農業している副業的農家が大半を占めています。

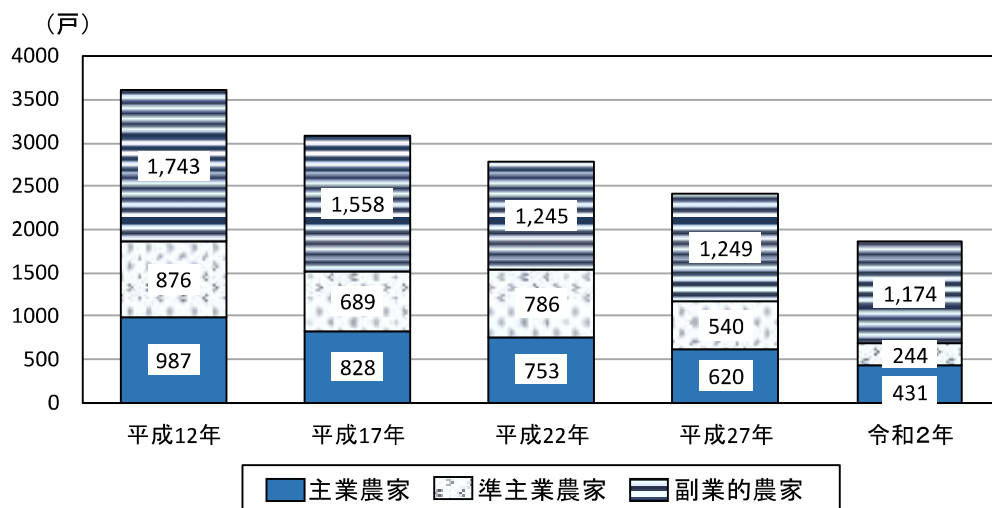
主副業別農家数の推移

単位：戸、%

年次	農家数計	主業農家数	準主業農家数	副業的農家数
平成12年	3,606 (100)	987 (27.4)	876 (24.3)	1,743 (48.3)
平成17年	3,075 (100)	828 (26.9)	689 (22.4)	1,558 (50.7)
平成22年	2,784 (100)	753 (27.0)	786 (28.2)	1,245 (44.7)
平成27年	2,409 (100)	620 (25.7)	540 (22.4)	1,249 (51.8)
令和2年	1,849 (100)	431 (23.3)	244 (13.2)	1,174 (63.5)

注) () 内は構成比。

資料：農林業センサス



③ 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者数は、減少傾向にあり、平成22年と令和2年で比較すると、1,218人(32.3%)減少しており、男女別に比較すると、男性が541人(26.5%)減少、女性が677人(39.0%)減少しており、特に女性が減少しています。

令和2年の年齢階級別の構成比をみると、15～29歳が13人(0.5%)、30～59歳が429人(16.8%)、60～64歳が283人(11.1%)、65歳以上が1,829人(71.6%)となっており、65歳以上が大部分を占めています。

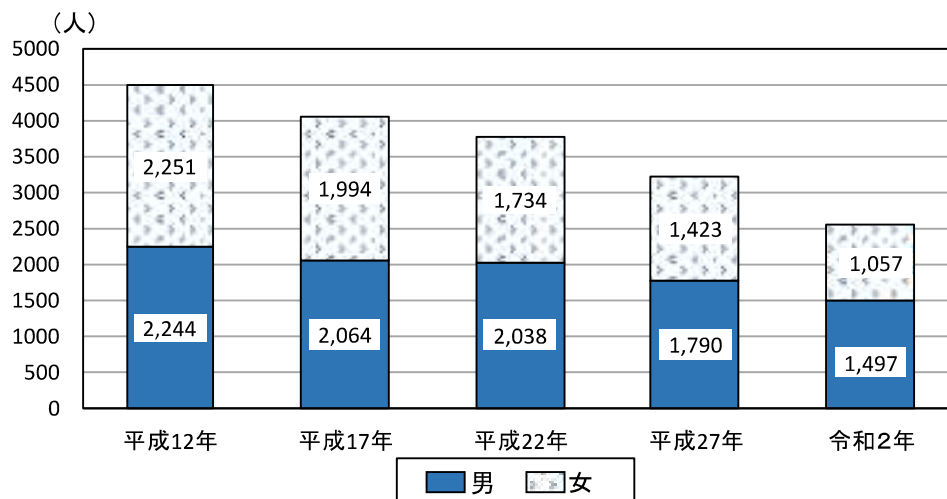
基幹的農業従事者数の推移

単位：人、%

年次	合計	男	女
平成12年	4,495 (100)	2,244 (49.9)	2,251 (50.1)
平成17年	4,058 (100)	2,064 (50.9)	1,994 (49.1)
平成22年	3,772 (100)	2,038 (54.0)	1,734 (46.0)
平成27年	3,213 (100)	1,790 (55.7)	1,423 (44.3)
令和2年	2,554 (100)	1,497 (58.6)	1,057 (41.4)

注) ()内は構成比。

資料：農林業センサス

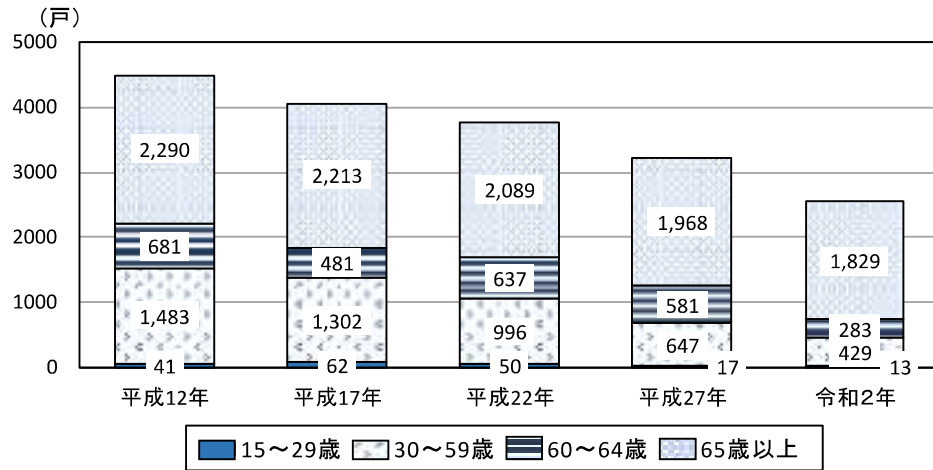


年齢別基幹的農業従事者数の推移

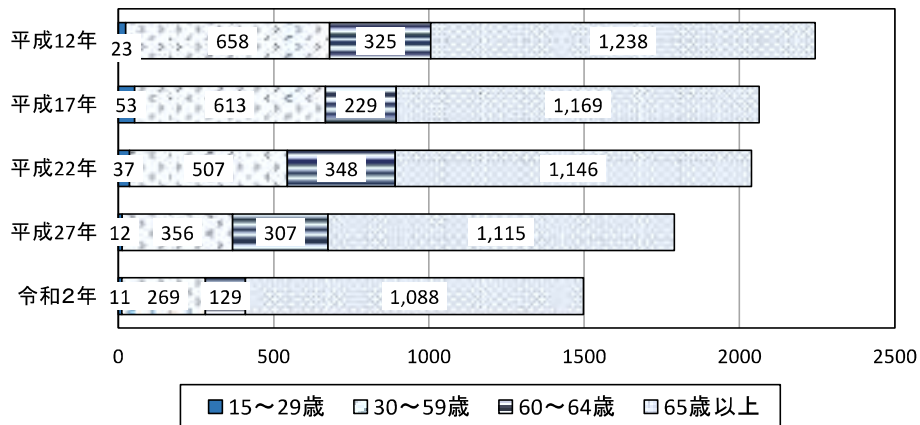
単位：人、%

年次	合計										
		男	15～29歳	30～59歳	60～64歳	65歳以上	女	15～29歳	30～59歳	60～64歳	65歳以上
平成12年	4,495	2,244	23	658	325	1,238	2,251	18	825	356	1,052
平成17年	4,058	2,064	53	613	229	1,169	1,994	9	689	252	1,044
平成22年	3,772	2,038	37	507	348	1,146	1,734	13	489	289	943
平成27年	3,213	1,790	12	356	307	1,115	1,423	5	291	274	853
令和2年	2,554	1,497	11	269	129	1,088	1,057	2	160	154	741

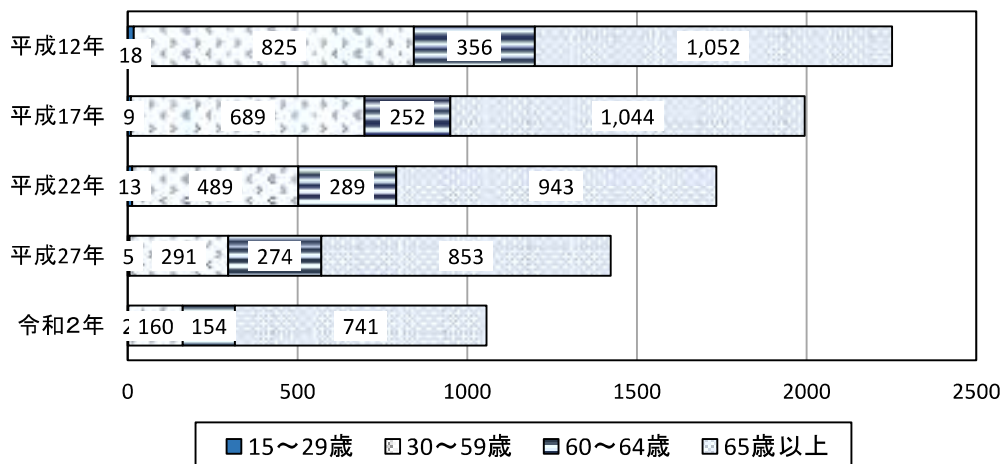
資料：農林業センサス



年齢別基幹的農業従事者数（男）の推移



年齢別基幹的農業従事者数（女）の推移



④ 畜産農家数と飼養頭羽数

畜産農家数を平成22年と令和2年の10年間で比較すると、乳用牛が27戸（64.3%）、肉用牛が32戸（56.1%）、豚が3戸（42.9%）、採卵鶏が4戸（80.0%）、ブロイラーが6戸（75.0%）減少となっており、減少傾向が続いています。

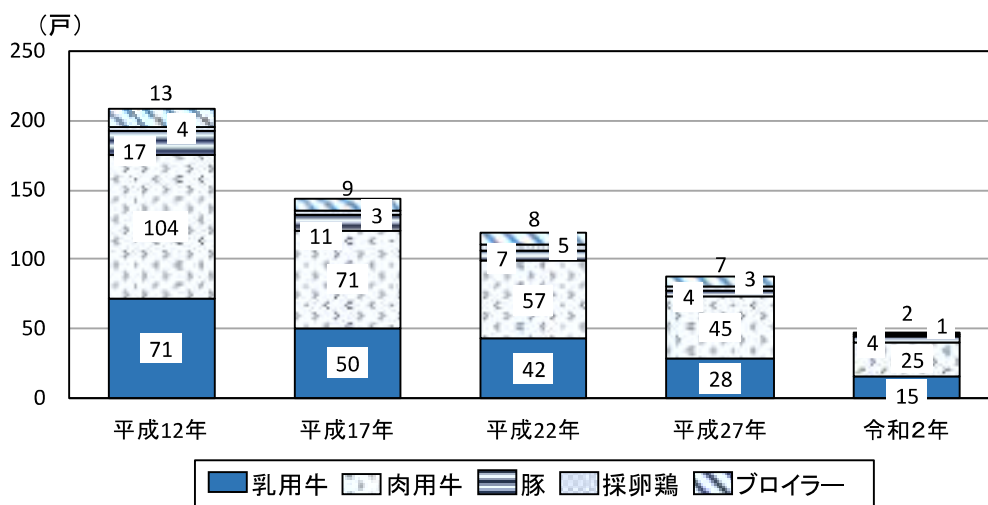
畜産農家数と飼養頭羽数の推移

単位：戸、頭、羽

年次	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー	
	農家数	飼養頭数	農家数	飼養頭数	農家数	飼養頭数	農家数	飼養頭数	農家数	出荷羽数
平成12年	71	2,558	104	6,091	17	5,855	4	x	13	x
平成17年	50	2,286	71	5,423	11	x	3	x	9	x
平成22年	42	2,124	57	4,310	7	10,822	5	63	8	4,940
平成27年	28	1,594	45	3,417	4	6,469	3	12	7	955
令和2年	15	1,034	25	x	4	22,167	1	x	2	x

資料：農林業センサス

※xは、秘密保護上、数値を公表しないもの。



⑤ 農業法人経営体数

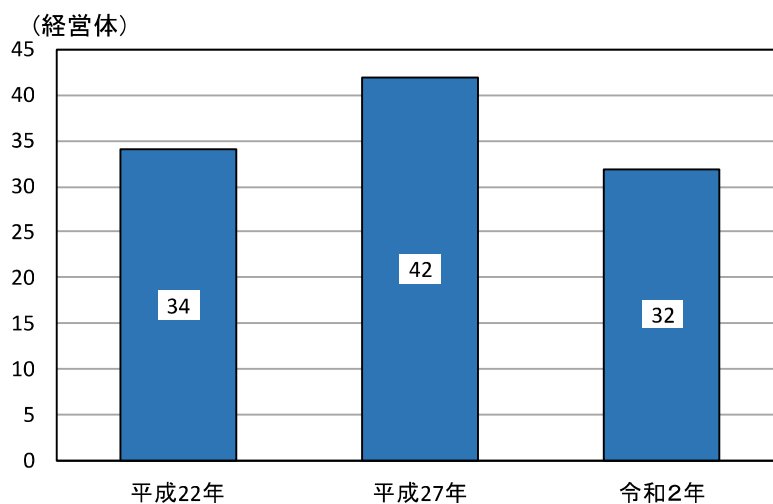
令和2年の農業法人経営体数は32経営体で、平成27年と令和2年を比較すると5年間で10経営体減少しており、農業経営の法人化は進んでいません。

農業法人経営体数の推移

単位：経営体

年次	平成22年	平成27年	令和2年
法人経営体数	34	42	32

資料：農林業センサス



(2) 土地の現状

① 耕地面積

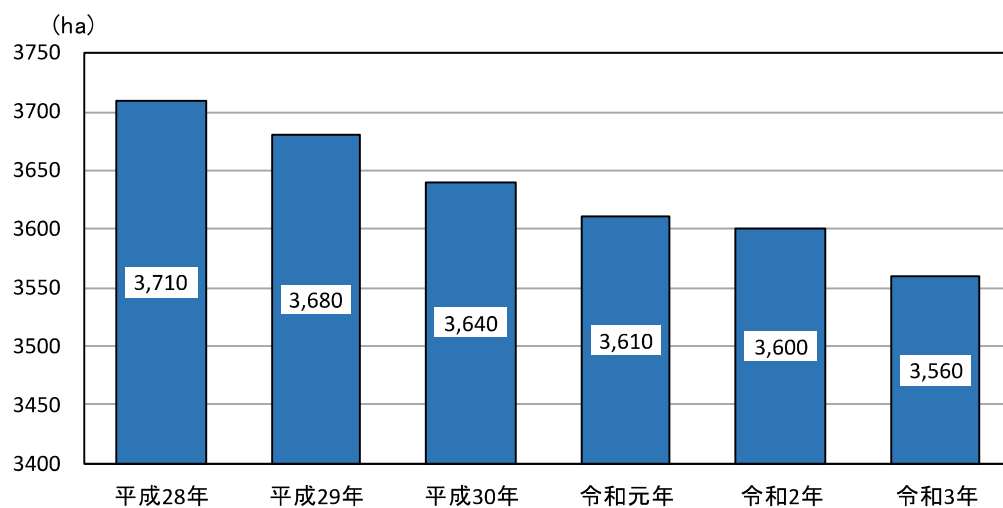
耕地面積は、毎年減少傾向にあり、平成28年と令和2年を比較すると150ha（4.0%）減少しています。

耕地面積の推移

単位：ha

年次	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
耕地面積	3,710	3,680	3,640	3,610	3,600	3,560

資料：市町村別作物統計調査



② 経営耕地面積

経営耕地面積は、減少傾向にあり、平成22年と令和2年を比較すると638ha（23.2%）減少しています。田の減少面積は785haとなっています。増減割合からみると、田が32.7%、樹園地が46.8%減少しているのに対し、畑が82.8%増加しています。

令和2年の地目別構成比は、田が1,619ha（76.6%）、畑が437ha（20.7%）、樹園地が58ha（2.7%）となっています。

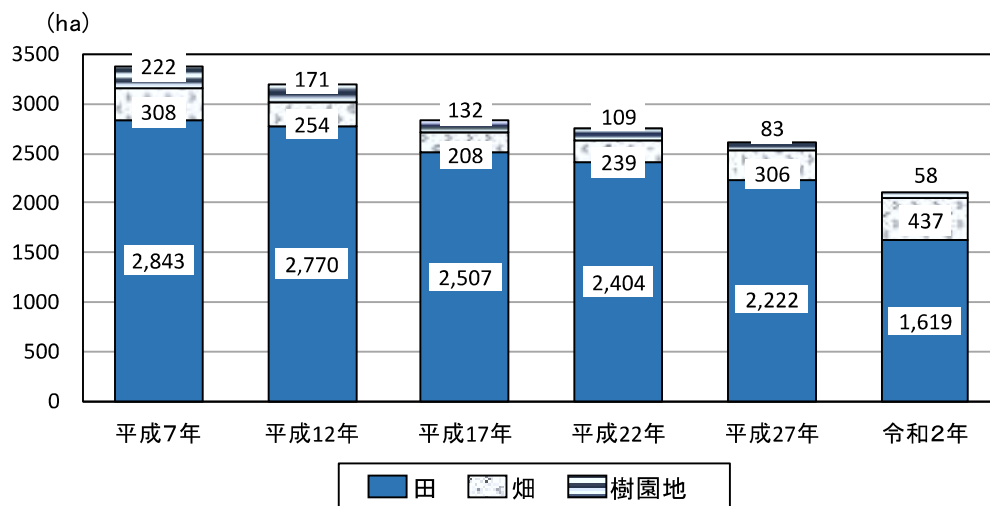
経営耕地面積の推移

単位: ha、%

年次	計	田	畑	樹園地
平成7年	3,373 (100)	2,843 (84.3)	308 (9.1)	222 (6.6)
平成12年	3,195 (100)	2,770 (86.7)	254 (7.9)	171 (5.4)
平成17年	2,847 (100)	2,507 (88.1)	208 (7.3)	132 (4.6)
平成22年	2,752 (100)	2,404 (87.4)	239 (8.7)	109 (4.0)
平成27年	2,611 (100)	2,222 (85.1)	306 (11.7)	83 (3.2)
令和2年	2,114 (100)	1,619 (76.6)	437 (20.7)	58 (2.7)

注) ()内は構成比。

資料: 農林業センサス



③ 1戸あたり経営耕地面積

1戸あたり経営耕地面積は113aで、平成22年と令和2年を比較すると14a（14.1%）増加しており、地目別には田が1a（1.2%）、畑が14a（55.0%）の増加、樹園地が1a（25.0%）の減少となっています。

また、1戸あたりの経営耕地面積は、年々増加傾向にあり、農地集積が進んでいることも一つの要因として考えられます。

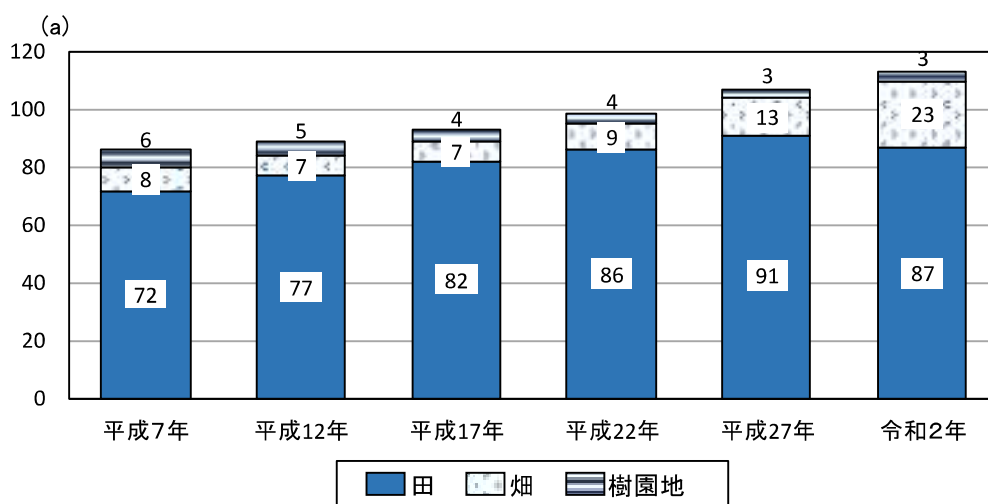
1戸あたり経営耕地面積の推移

単位：a、%

年次	計	田	畑	樹園地
平成7年	86 (100)	72 (83.7)	8 (9.3)	6 (7.0)
平成12年	89 (100)	77 (86.5)	7 (7.9)	5 (5.6)
平成17年	93 (100)	82 (88.2)	7 (7.5)	4 (4.3)
平成22年	99 (100)	86 (86.9)	9 (9.1)	4 (4.0)
平成27年	107 (100)	91 (85.0)	13 (12.1)	3 (2.8)
令和2年	113 (100)	87 (77.0)	23 (20.4)	3 (2.7)

注) ()内は構成比。

資料：農林業センサス



(3) 農業生産の現状

① 統計調査による農作物作付面積

作物別作付面積をみると、稲が最も多く、次いで野菜、果樹の順になっています。

作物面積の合計で平成22年と令和2年を比較すると、394ha（15.5%）減少しており、類別では、稲が441ha（26.9%）、雑穀が1ha（50.0%）、豆類が1ha（25.0%）、果樹が43ha（45.7%）減少、野菜類が20ha（2.5%）、花き類・花木が8ha（38.1%）、その他作物が58ha（61.0%）増加しています。

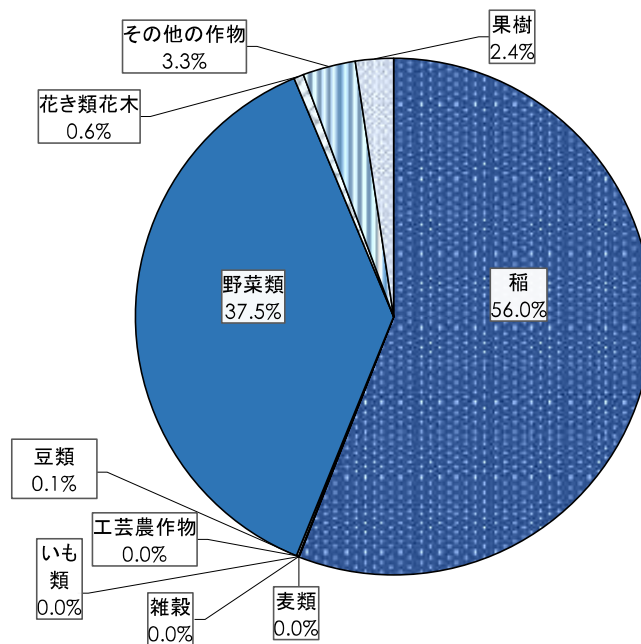
統計調査による農作物作付面積

単位：ha

年次	合計	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸農作物	野菜類	花き類・花木	その他の作物	果樹
平成17年	2,511	1,480	13	9	10	9	85	760	19	19	107
平成22年	2,538	1,641	6	2	24	4	55	785	21	13	94
平成27年	2,362	1,407	8	x	10	4	24	802	8	27	72
令和2年	2,144	1,200	x	1	x	3	x	805	13	71	51

資料：農林業センサス

※xは、秘密保護上、数値を公表しないもの。



② 農業産出額

令和2年の農業産出額は、1,467千万円で、県下の産出額となっています。

ただし、農業産出額については全県的に減少していることもあり、平成27年と令和2年で比較すると、42千万円減少しています。具体的には、野菜類が654千万円（44.6%）、果実が65千万円（4.4%）、花きが20千万円（1.4%）と減少しており、野菜類、果実と花きが主な要因となっています。しかし、米については227千万円（15.5%）増加し、農業産出額全体に占める割合も、野菜類、豚に次いで3番目に大きくなっています。

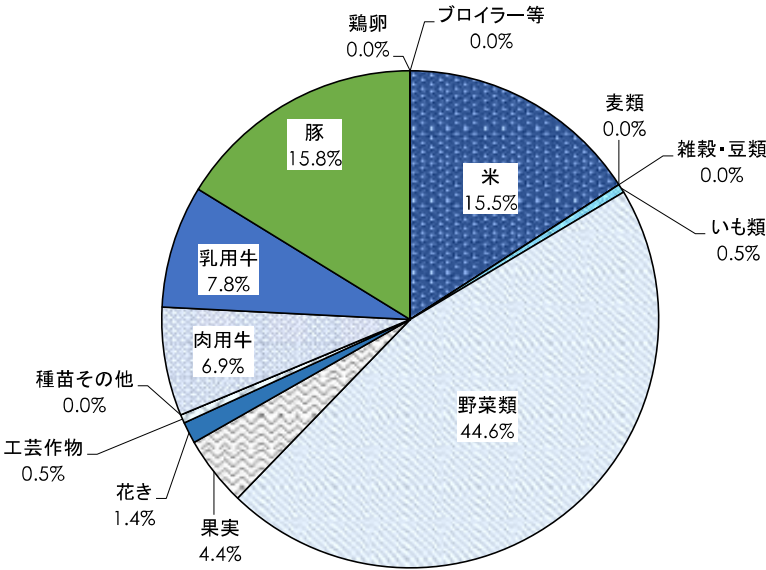
農業産出額の推移

年次	合計	耕種										畜産				
		米	麦類	雑穀・豆類	いも類	野菜類	果実	花き	工芸作物	種苗その他		肉用牛	乳用牛	豚	鶏卵	ブロイラー等
平成12年	1,772	262	2	4	13	638	96	49	53	3		245	129	127	3	114
平成17年	1,693	257	1	1	8	620	72	42	34	2		205	113	173	6	153
平成22年	1,385	164	0	0	7	678	74	29	13	11		91	137	113	3	65
平成27年	1,509	177	0	0	11	747	72	28	10	12		112	138	126	4	73
令和2年	1,467	227	x	0	8	654	65	20	8	x		101	114	232	0	x

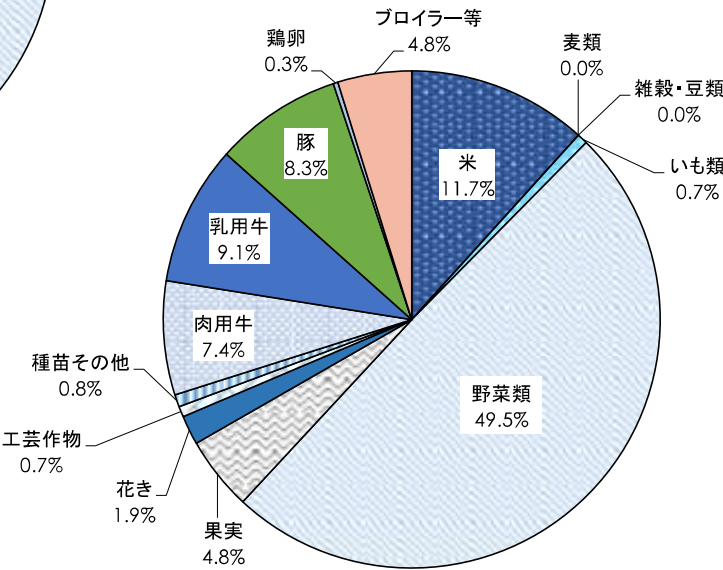
※端数処理により農業産出額計が一致しない場合があります。
※Xは、秘密保護上、数値を公表しないもの。

資料：農林水産省市町村別農業産出額（推計）

農業産出額（令和2年）
（総額 1,467 千万円）



農業産出額（平成27年）
（総額 1,509 千万円）



③ 令和3年のJA 系統販売実績

令和3年のJA系統の生産量が県下であった青果物は茄子やレタス等、19品目となっています。特に、レタスやリーフレタス、白菜、メロン、すいかに関しては、県内生産量の90%以上が阿波市となっています。

令和3年 阿波市内の生産量が県下の青果物(JA系統)

単位[数量=t][金額=千円][単価=円][シェア=%]

No.	品目	阿波市			県下全体			阿波市シェア (数量)
		数量	金額	単価	数量	金額	単価	
1	茄子	2,142	653,851	305	3,740	1,128,445	302	57
2	レタス	3,454	524,864	152	3,831	582,486	152	90
3	ミニとまと	308	158,040	514	363	188,965	520	85
4	えんどう	75	99,318	1,320	121	150,986	1,251	62
5	リーフレタス	384	98,129	255	408	102,870	252	94
6	トマト	279	91,433	328	649	190,044	293	43
7	ぶどう	58	89,981	1,543	86	118,815	1,384	68
8	キャベツ	811	49,631	61	1,011	63,140	62	80
9	ししとうがらし	45	28,994	646	75	47,504	632	60
10	白菜	513	23,753	46	542	24,943	46	95
11	アスパラガス	11	12,472	1,121	21	23,649	1,132	53
12	パセリ	16	12,438	802	23	19,570	857	68
13	南瓜	28	4,074	144	60	8,023	134	47
14	ズッキーニ	16	3,969	256	22	5,627	261	72
15	春菊	4	2,222	565	11	5,185	466	35
16	メロン	6	2,004	351	6	2,077	353	97
17	すいか	5	1,230	267	5	1,230	267	100
18	じゃがいも	9	910	106	17	2,038	121	51
19	みょうが	1	201	400	1	432	535	62

第2章 阿波市の農業を取り巻く状況

阿波市青果物旬のカレンダー(令和3年JA販売実績)

[単位:kg]

品目		冬		春			夏			秋			冬
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
果菜類	茄子	30,626	38,070	53,883	57,593	59,117	118,140	508,249	539,005	356,970	306,498	48,214	25,935
	トマト	25,516	18,936	21,228	24,914	20,052	30,972	73,182	8,186	4,380	8,656	19,352	23,700
	ミニとまと	29,350	29,782	29,781	34,176	35,354	40,267	20,283	4,182	8,982	17,201	27,525	30,887
	胡瓜	6,710	835		23,925	42,187	49,682	27,451	17,909	6,428	40,894	33,722	16,772
	青とうがらし	768	913	1,293	1,443	1,760	5,331	14,743	7,856	4,998	3,327	1,489	985
	南瓜					260	3,600	14,490	9,970				
	ゴーヤ							495	2,460	675	87		
	ピーマン						252	443	50				
	おくら						58	1,743	904	786	426		
穀物類	とうもろこし					3,960	147,480	44,180					
豆類	えんどう	2,686	2,749	5,036	39,079	12,747				23	2,120	5,740	5,063
	そらまめ				370	4,411							
	いんげん					290	2,566	1,000	38	4	182	1,194	184
	えだ豆					9,296	36,798	20,761	5,579	856			
果実的野菜	いちご	23,737	28,932	30,991	27,499	9,517	410					2,308	15,284
	すいか					380	4,170	50					
	メロン						3,540	2,165					
	ゆず											771	
葉菜類	レタス	379,860	696,482	644,230	388,190	58,170					100,870	577,900	608,780
	キャベツ	80,100	65,280	125,140	106,850	166,710	83,030				910	143,800	39,180
	白菜	126,375	70,215	10,110							4,520	101,340	200,825
	リーフレタス	54,612	68,924	45,689	48,903	5,054	5				20,943	70,538	69,741
	ほうれん草	2,767	8,067	9,942	3,705	3,177	3,046	2,485	1,420	1,018	2,379	3,200	4,688
	パセリ	2,215	2,465	4,205	2,530	40					215	1,435	2,405
	小松菜												
	みず菜	44	129	144	98	51	20				44	86	46
	ねぎ	2,864	3,481	6,087	4,364	4,632	4,174	5,013	4,418	3,105	2,872	3,175	4,164
茎類	アスパラガス		204	2,572	1,250	904	2,259	2,920	924	93			
	たまねぎ				300	220	1,160	580					
	にんにく				954	1,581							
花菜類	ブロッコリー	175,722	313,464	670,428	548,352	516,036	56,748	240			56,190	410,412	263,704
	カリフラワー	3,482	9,599	8,294	1,895	1,391	36				26	202	4,423
	いちぢく							601	1,187	1,302	28		
根菜類	大根	201,815	253,680	167,805	34,225	21,295	3,435					80,275	221,725
	人参			3,500	15,320	850							
芋類	じゃがいも					2,870	960		2,910			140	1,740
果実類	柿									16,257	43,029	31,715	5,019
	ぶどう					1,385	16,674	18,097	20,108	2,046			
	梅					17,670	9,060						
	すだち					92	703	421	13,384	20,066	5,214		
	デコポン			5,361	2,974	55							

第2章 阿波市の農業を取り巻く状況

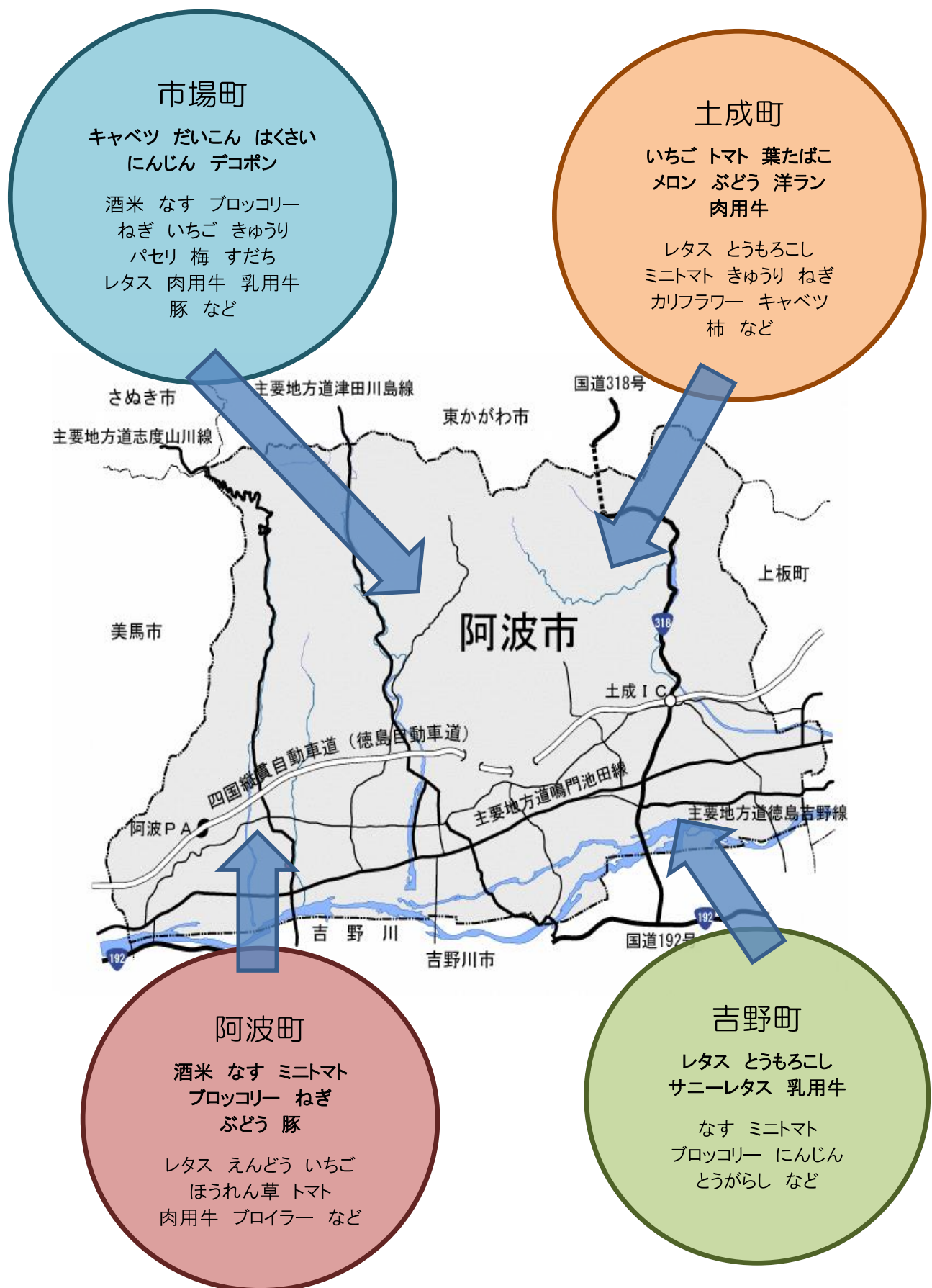
過去5年間の品目別の販売実績を比較すると、5年前から販売量の多かったブロッコリーやレタスが、数量・販売金額ともに増加している一方で、茄子やミニとまとは減少しています。また、現時点では生産量は多くありませんが、えだ豆やオクラ等も販売実績を伸ばしています。

令和3年阿波市青果物販売実績（JA系統）

単位[数量=㍑][金額=千円][数量伸率、金額伸率=%]

順位	市町村名	平成29年		平成30年		平成31年		令和2年		令和3年		29年と3年の比較	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量伸率	金額伸率
1	ブロッコリー	2,274	832,461	1,940	628,727	2,617	801,079	3,052	968,351	3,011	887,585	32	7
2	茄子	2,643	768,950	2,142	723,836	2,412	773,890	2,395	879,625	2,142	653,851	▲ 19	▲ 15
3	レタス	1,774	431,068	2,052	390,273	2,222	446,246	3,331	556,962	3,454	524,864	95	22
4	いちご	157	196,759	160	217,918	144	196,767	141	192,572	139	194,743	▲ 11	▲ 1
5	ミニとまと	434	254,854	433	238,221	357	194,800	307	166,767	308	158,040	▲ 29	▲ 38
6	えんどう	95	113,253	72	93,181	96	110,046	89	100,127	75	99,318	▲ 21	▲ 12
7	リーフレタス	354	152,910	361	114,521	364	117,517	357	88,970	384	98,129	8	▲ 36
8	トマト	512	144,548	325	101,229	216	74,340	252	88,481	279	91,433	▲ 46	▲ 37
9	ぶどう	78	83,511	69	84,420	58	75,080	59	85,670	58	89,981	▲ 26	8
10	キャベツ	841	86,027	787	76,588	907	65,676	949	81,255	811	49,631	▲ 4	▲ 42
11	胡瓜	310	77,832	387	105,981	337	81,908	287	78,306	267	61,854	▲ 14	▲ 21
12	とうもろこし	259	60,153	194	53,983	198	54,062	237	66,457	196	56,434	▲ 24	▲ 6
13	えだ豆	3	2,133	2	1,512	5	3,761	88	62,770	73	56,163	2,333	2,533
14	大根	1,509	128,635	789	81,619	1,102	68,668	1,005	58,156	984	61,736	▲ 35	▲ 52
15	青とうがらし	62	45,310	47	44,183	51	39,587	49	37,660	45	28,994	▲ 27	▲ 36
16	ほうれん草	58	38,484	48	28,464	57	30,583	56	28,454	46	23,993	▲ 21	▲ 38
17	ねぎ	78	26,648	65	22,836	80	26,372	83	25,531	48	14,758	▲ 38	▲ 45
18	柿	126	18,928	102	17,144	94	15,129	117	23,135	96	20,410	▲ 24	8
19	白菜	773	70,174	675	66,793	706	33,752	477	22,707	513	23,753	▲ 34	▲ 66
20	パセリ	20	27,524	20	21,980	21	20,549	19	12,149	16	12,438	▲ 20	▲ 55
21	アスパラガス	20	24,075	16	19,281	13	14,668	11	11,676	11	12,472	▲ 45	▲ 48
22	すだち	30	18,640	28	16,674	41	19,953	20	11,249	40	15,761	33	▲ 15
23	カリフラワー	44	8,231	41	8,173	41	8,434	52	8,451	29	5,673	▲ 34	▲ 31
24	人参	47	7,540	33	7,633	56	5,186	64	8,286	20	2,641	▲ 57	▲ 65
25	梅	30	8,574	31	7,772	24	6,972	13	5,921	27	7,989	▲ 10	▲ 7
26	いんげん	5	2,864	4	2,541	4	3,429	6	4,877	5	4,689	0	64
27	南瓜	30	5,337	17	2,694	12	1,932	19	4,120	28	4,074	▲ 7	▲ 24
28	デコボン	10	4,944	10	4,904	6	2,979	5	2,648	8	4,509	▲ 20	▲ 9
29	ズッキーニ	0	0	0	0	15	3,462	11	2,533	16	3,969	-	-
30	そらまめ	9	3,483	8	3,010	8	2,693	10	2,240	5	1,648	▲ 44	▲ 53
31	いちじく	7	2,774	4	1,730	5	2,186	4	2,034	3	1,563	▲ 57	▲ 44
32	にんにく	6	4,449	5	3,350	4	2,545	3	1,784	3	2,187	▲ 50	▲ 51
33	メロン	5	1,408	4	1,357	8	2,235	5	1,506	6	2,004	20	42
34	おくら	1	1,045	2	2,089	2	1,622	2	1,476	4	2,897	300	177
35	ゴーヤ	0	0	0	0	3	861	4	1,323	4	896	-	-
36	じゃがいも	10	909	8	507	7	517	4	1,245	9	910	▲ 10	0
37	みず菜	0	0	0	0	1	783	1	702	1	482	-	-
38	すいか	18	2,758	7	1,395	7	1,373	3	658	5	1,230	▲ 72	▲ 55
39	もも	1	173	1	267	1	235	1	500	1	240	0	39
40	ピーマン	1	246	1	595	1	241	1	261	1	229	0	▲ 7
41	栗	1	441	0.2	86	0.3	132	0.2	86	0.1	69	▲ 90	▲ 84
42	たまねぎ	13	933	6	351	2	124	0	18	2	165	▲ 85	▲ 82
合計		12,652	3,658,983	10,896	3,197,819	12,306	3,312,376	13,586	3,697,698	13,172	3,284,404	4	▲ 10

③ 阿波市の地域別農作物マップ



(4) 農業関係者アンケート調査結果

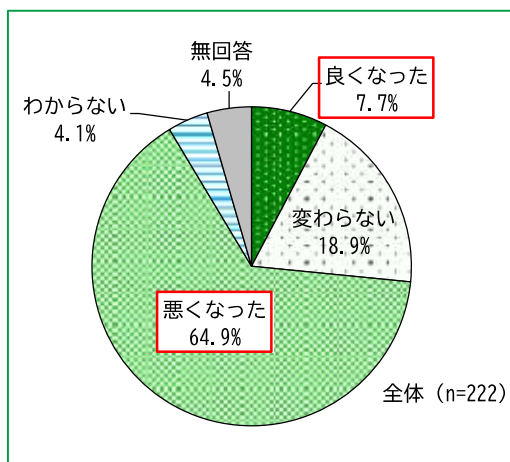
令和4年8月23日（火）～9月9日（金）の期間で、阿波市内の農業関係者400人に対して郵送によるアンケート調査を実施しました。（有効回答者数222人・回答率55.5%）

◆ 農業経営の現状 ◆

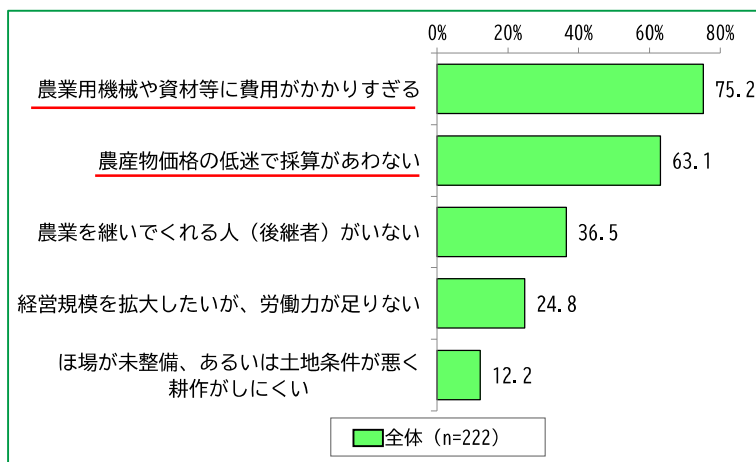
◎5年前と比べた農業経営の状況については、「悪くなった」の割合が64.9%と半数以上を占めている一方で、「良くなった」の割合は7.7%となっています。

◎農業経営を行う上での悩みについては、「農業用機械や資材等に費用がかかりすぎる」の割合が75.2%と最も高く、次いで「農産物価格の低迷で採算があわない」（63.1%）、「農業を継いでくれる人（後継者）がいない」（36.5%）、などが続いています。

【5年前と比べた農業経営の状況】



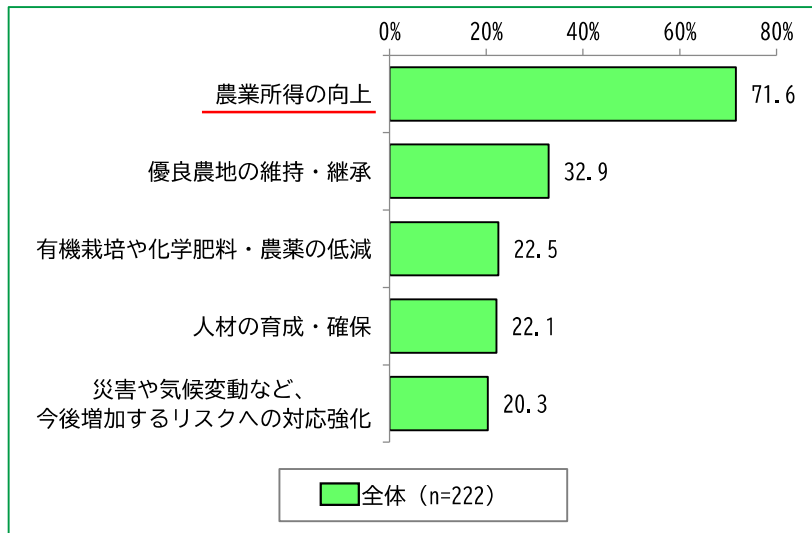
【農業経営を行う上での悩み（上位5項目）】



◆ 今後の農業経営について ◆

◎農業経営で重視している点・今後重視したい点については、半数以上が「農業所得の向上」（71.6%）と回答しています。次いで「優良農地の維持・継承」（32.9%）、「有機栽培や化学肥料・農薬の低減」（22.5%）などが続いています。

【農業経営で重視している点・今後重視したい点（上位5項目）】



◎今後の見通しについては、「現状のまま続ける」の割合が47.7%と約半数を占めており、次いで「規模を縮小する」(26.6%)、「拡大していく」(12.2%)、「農業をやめる」(5.4%)と続いています。

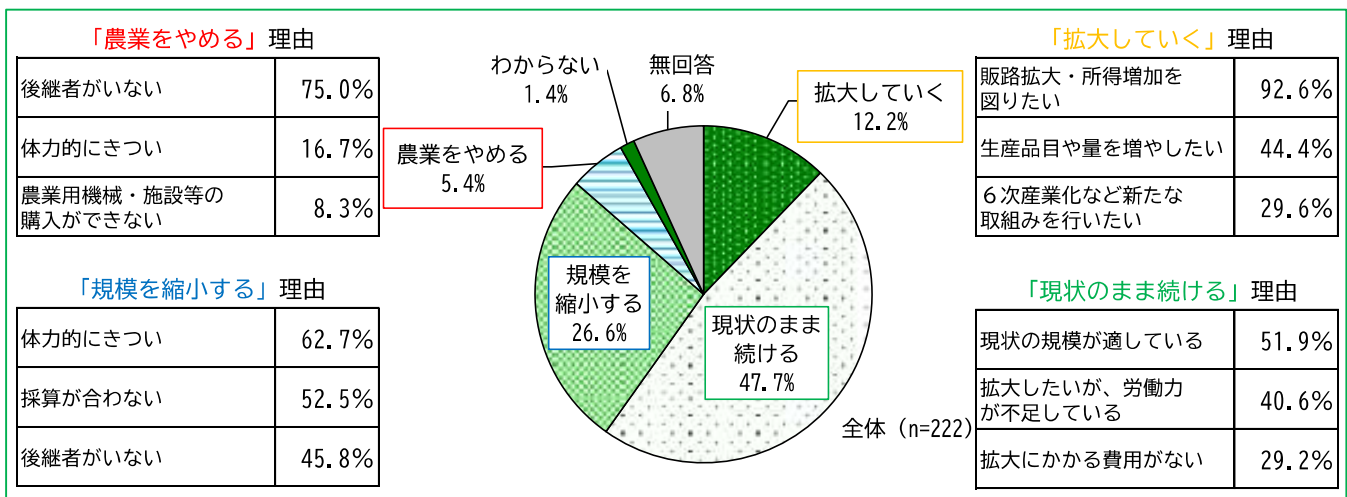
◎「拡大していく」と答えた理由については、「販路拡大・所得増加を図りたい」の割合が92.6%と最も高く、次いで「生産品目や量を増やしたい」(44.4%)、「6次産業化など新たな取り組みを行いたい」(29.6%)となっています。

◎「現状のまま続ける」と答えた理由については、「現在の規模が適している」の割合が51.9%と最も高く、次いで「拡大したいが、労働力が不足している」(40.6%)、「拡大にかかる費用がない」(29.2%)となっています。

◎「規模を縮小する」と答えた理由については、「体力的にきつい」の割合が62.7%と最も高く、次いで「採算が合わない」(52.5%)、「後継者がいない」(45.8%)となっています。

◎「農業をやめる」と答えた理由については、「後継者がいない」の割合が75.0%と最も高く、次いで「体力的にきつい」(16.7%)、「農業用機械・施設等の購入ができない」(8.3%)となっています。

【今後の見通し、及びその理由（上位3項目）】

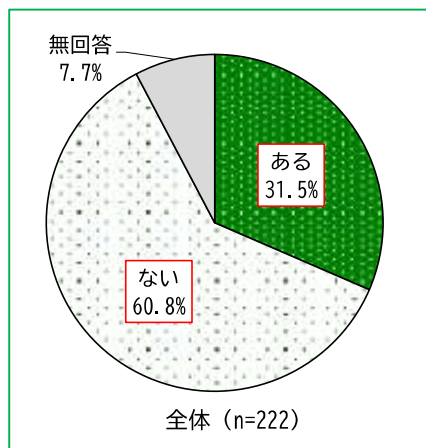


◆ 農地について ◆

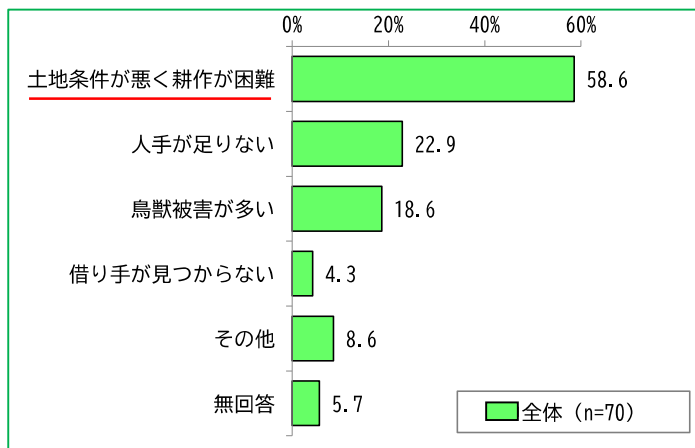
◎耕作していない農地の有無については、「ある」の割合が31.5%、「ない」の割合が60.8%となっています。

◎耕作していない理由については、半数以上が「土地条件が悪く耕作が困難」(58.6%)と回答しており、次いで「人手が足りない」(22.9%)、「鳥獣被害が多い」(18.6%)となっています。

【耕作していない農地の有無】



【耕作していない理由】

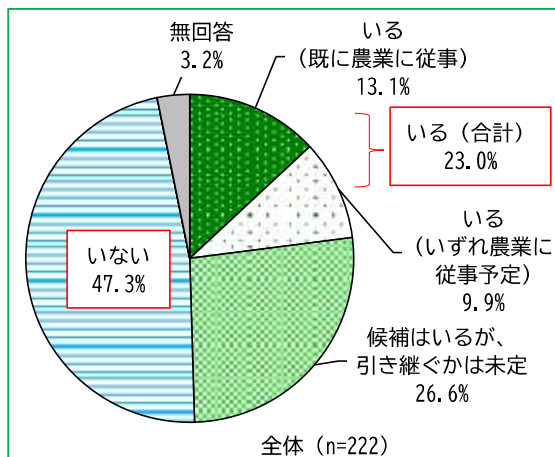


◆ 農業の担い手について ◆

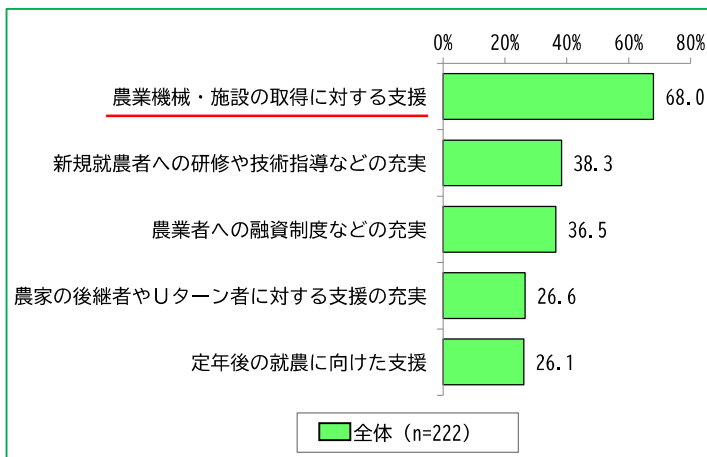
◎後継者の有無については、「いない」の割合が47.3%と半数近くを占めており、「いる」(23.0%) (うち、既に従事：13.1%、予定：9.9%) を大きく上回っています。

◎担い手の確保・育成のために必要なことについては、半数以上が「農業機械・施設の取得に対する支援」(68.0%)と回答しており、次いで「新規就農者への研修や技術指導などの充実」(38.3%)、「農業者への融資制度などの充実」(36.5%)となっています。

【後継者の有無】



【担い手の確保・育成に必要なこと (上位5項目)】

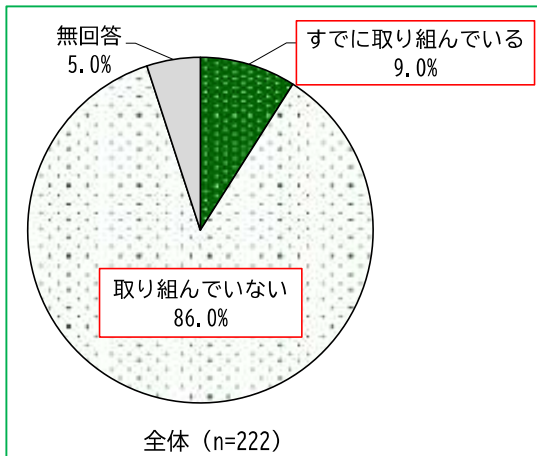


◆ 6次産業化について ◆

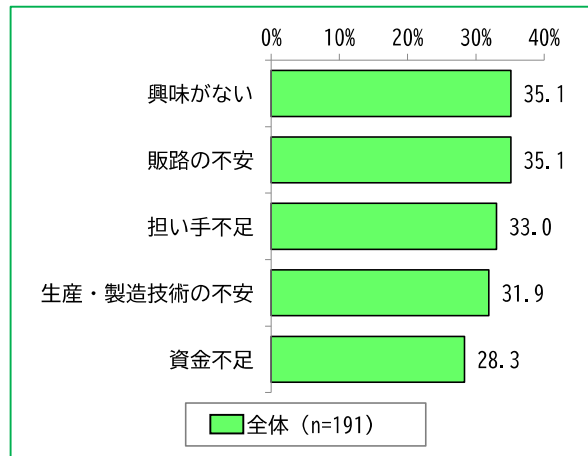
◎6次産業化への取り組み状況については、「すでに取り組んでいる」の割合が9.0%、「取り組んでいない」の割合が86.0%となっており、「すでに取り組んでいる」は1割に満たない結果となっています。

◎6次産業化に取り組んでいない理由については、「興味がない」「販路の不安」の割合がどちらも35.1%と最も高く、次いで「担い手不足」(33.0%)、「生産・製造技術の不安」(31.9%)、「資金不足」(28.3%)となっています。

【6次産業化への取り組み状況】



【取り組んでいない理由（上位5項目）】

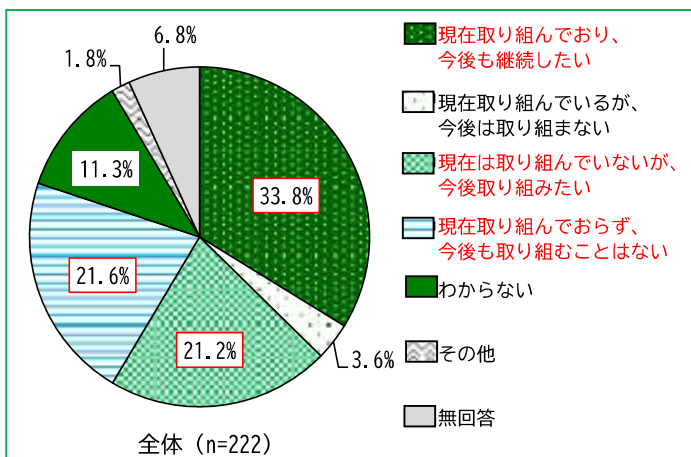


◆ 環境保全型農業について ◆

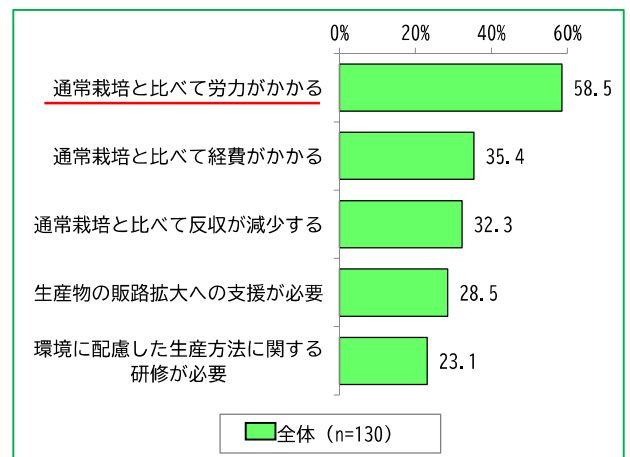
◎環境に配慮した農業への考えについては、「現在取り組んでおり、今後も継続したい」の割合が33.8%と最も高く、次いで「現在取り組んでおらず、今後も取り組むことはない」(21.6%)、「現在は取り組んでいないが、今後取り組みたい」(21.2%)と続いています。

◎環境に配慮した農業に取り組む上での課題等については、半数以上が「通常栽培と比べて労力がかかる」(58.5%)と回答しており、次いで「通常栽培と比べて経費がかかる」(35.4%)、「通常栽培と比べて反収が減少する」(32.3%)となっています。

【環境に配慮した農業への考え】



【取り組む上での課題（上位5項目）】

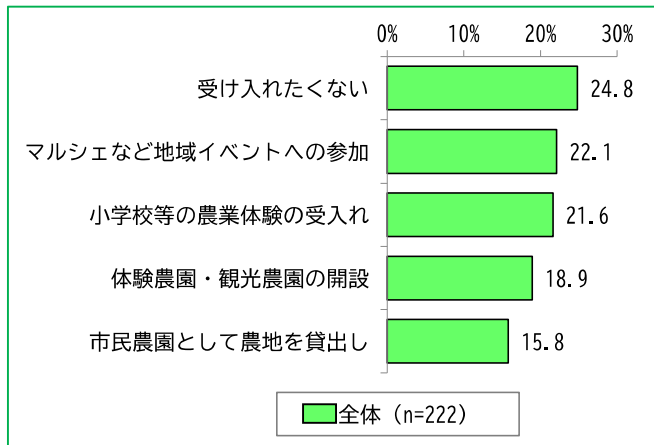


◆ 農業者以外の市民との交流 ◆

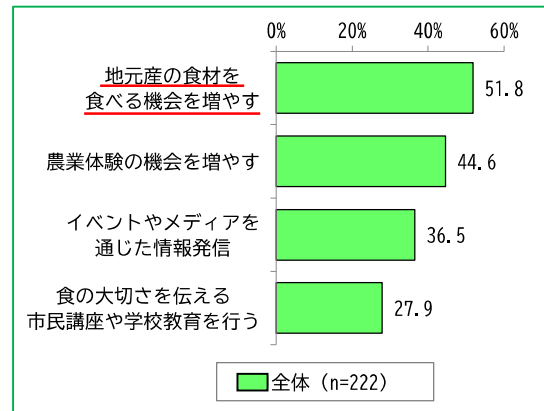
◎農業者以外の方々との交流については、「受け入れたくない」の割合が24.8%と最も高く、次いで「マルシェなど地域イベントへの参加」(22.1%)、「小学校等の農業体験の受入れ」(21.6%)、「体験農園・観光農園の開設」(18.9%)と続いています。

◎農業を身近に感じてもらうために必要な取組については、半数以上が「地元産の食材を食べる機会を増やす」(51.8%)と回答しており、次いで「農業体験の機会を増やす」(44.6%)、「イベントやメディアを通じた情報発信」(36.5%)、「食の大切さを伝える市民講座や学校教育を行う」(27.9%)となっています。

【農業者以外の方々との交流（上位5項目）】



【農業を身近に感じてもらう取組（上位4項目）】

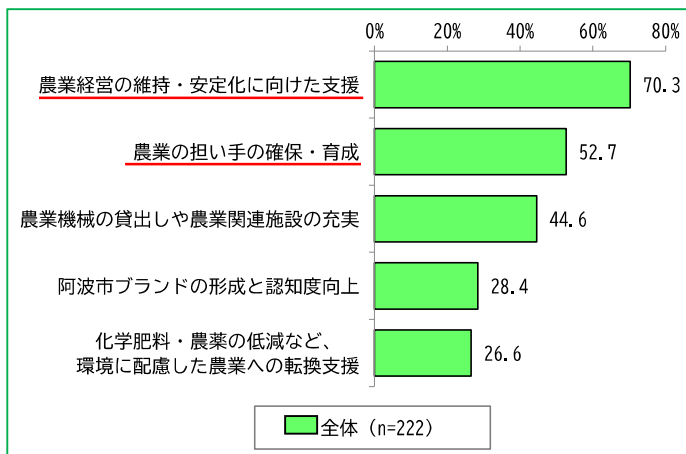


◆ 阿波市の農業振興について ◆

◎市が力を入れるべき施策については、「農業経営の維持・安定化に向けた支援」(70.3%)と「農業の担い手の確保・育成」(52.7%)がともに半数以上の回答率となっており、次いで「農業機械の貸出しや農業関連施設の充実」(44.6%)などが続いています。

◎補助・助成をしてほしいものについては、半数以上が「農業用機械」(69.8%)と回答しており、次いで「農業用施設・資材」(49.5%)、「賃金・所得補償」(36.9%)となっています。

【市が力を入れるべき施策（上位5項目）】



【補助・助成をしてほしいもの（上位5項目）】

